

# 精和病院



## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	総務課
項 目	1 コロナ病床の確保		

### (1) 対応、取組、実績

- ・ 令和2年9月に病棟再編し新型コロナ対応病棟を開設、重点医療機関として他の精神科病院等から新型コロナウイルスに罹患した精神身体合併症患者を受け入れるため、各フェーズに応じた即応病床を2床から6床確保、患者の受け入れを行った。
- ・ 令和2年12月から令和3年2月にかけて新型コロナ対応病棟の改修工事を実施。
- ・ 令和3年度から4年度においては各フェーズに応じ即応病床を2床から14床確保し患者の受け入れを行った。
- ・ 令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行されたことを受け、即応病床数を2床から6床とし患者受け入れを行ってきたところである。
- ・ 令和2年度から令和5年5月までの新型コロナ入院患者の受け入れは合計353名となっている。

### (2) 評価

- ・ 当院において精神症状を有する新型コロナ感染者を一定数受け入れることで、合併症患者の治療及び県内精神科病院における新型コロナ対応の負担軽減に繋がったものと考えている。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・ 当院は身体症状を扱う病院ではないため、原則、中等症以上の患者受け入れは困難である。

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	総務課
項 目	2 医療従事者の確保、院外派遣協力		

(1) 対応、取組、実績
<p><b>【医療従事者の確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年6月、当院の新型コロナ対応病棟における患者受け入れ数の増加に伴い、総務省の「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した応急対策職員派遣制度」を活用し、令和3年6月14日から6月25日の間、NTT西日本東海病院から看護師4名を派遣して頂いた。</li> <li>・ 令和4年8月、当院病棟において新型コロナのクラスターが発生し、看護師等の就業制限に伴う看護体制の不足が生じたことから、「しまナース派遣事業」により看護師3名を派遣いただき人員の確保を図った。</li> </ul> <p><b>【院外派遣協力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年4月から令和5年9月までに、クラスター発生施設やワクチン接種関連、入院待機ステーション、宿泊療養施設等に対し、医師、看護師等のスタッフ288名を応援のため派遣した。</li> </ul>
(2) 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国や県の派遣事業を活用し、逼迫した医療提供体制の不足を補うことができた。また、他の県立病院や民間病院におけるクラスター発生時やワクチン接種等に対し、職員を派遣することで新型コロナの終息に向けた一定の支援を行えたものとする。</li> </ul>
(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）
<p>特になし。</p>

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	
項 目	3 医療機器の整備、医療資機材の確保		

### (1) 対応、取組、実績

- 令和2年度から令和4年度にかけて、国の補助金等を活用し、新型コロナウイルス陽性患者の受入病棟整備及び関連医療機器等の整備を行った。

#### (主な整備)

令和2年度：東1病棟を新型コロナウイルス陽性患者受入病棟とするため、ドア設置、換気扇設置等の病棟改修を行った。また、簡易陰圧装置等の医療機器を14件調達した。

令和3年度：生体情報モニタ等の医療機器を2件調達した。

令和4年度：東1病棟（受入病棟）に医療用酸素ガス設備整備を行った。

- ・ガウンやN95などの新型コロナウイルス感染症に対応する物品を確保するため、病院の予算から捻出し、また補助金を活用することで確保に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する検査体制を確保するため、令和3年6月より抗原キットを購入し、令和5年9月まで約6,400テスト分確保した。

### (2) 評価

- ・東1病棟をコロナウイルス陽性患者受入病棟とするために病棟改修を行ったことにより、県内の精神科疾患を有する新型コロナウイルス陽性患者の受入を行うことができた。
- ・ガウンやN95などの診療材料、検査体制の確保、洗浄・消毒・感染対策関連の消耗品を準備することができ、新型コロナウイルス感染症に対応することができた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・各補助金の活用にあたり、調整窓口が複数（医療政策課、地域保健課、病院事業局本庁等）となっていたため、対応に混乱した。
- ・病棟改修や医療用酸素ガス設備整備を実施するにあたり、感染エリア内への業者の出入りができず、日程調整に苦労した。
- ・新型コロナウイルス感染症対応備品（ガウンやN95等）を国や県から支給されたが、消費しきれず、在庫として残っている。これらを必要な施設へ再分配できるような仕組みを考える必要がある。

### 添付資料

精和病院医療機器等コロナ補助金整理（R2～R4）

コロナ対策整理（機器・施設整備）（R2～R4）

県立精和病院

単位：円

No	年度	項目	内容	数量	形式及び規格等	補助金名	補助額	補助率	備考
1	R2	施設整備	東1病棟改修工事設計業務	1	—	新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関施設・設備（精神）関連事業	1,736,900	10/10	
2	R2	施設整備（修繕費）	東病棟外周フェンス及び扉設置	1	—	新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関施設・設備（精神）関連事業	1,100,000	10/10	
3	R2	施設整備（修繕費）	東1ドア移設及び東3ドア取替	1	—	新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関施設・設備（精神）関連事業	698,430	10/10	
4	R2	備品購入	多目的空気清浄機	1	ACE4000	新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関施設・設備（精神）関連事業	1,297,670	10/10	
5	R2	施設整備	東1病棟改修工事	1	換気扇、カメラ、テレビ等	新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関施設・設備（精神）関連事業	8,352,000	10/10	
6	R2	備品購入	ベッドパンクォンシャー	1	CLINOX 3A AUTO	医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業	1,641,860	10/10	
7	R2	備品購入	脱水洗濯機	1	WE170V(60Hz)	医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業	858,000	10/10	
8	R2	備品購入	簡易陰圧装置	6	ACE4000E	新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業	7,786,000	10/10	
9	R2	備品購入	簡易陰圧装置	2	ECU4AR500	新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業	4,026,000	10/10	
10	R2	備品購入	簡易陰圧装置	1	ECU4AR500	新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業	2,035,000	10/10	
11	R2	備品購入	超音波画像診断装置	1	タブレット型超音波診断装置 Viamo SV7	新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備事業	3,740,000	10/10	
12	R3	備品購入	生体情報モニタ	1	WEP-5218、ZS-630P	新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備事業	5,500,000	10/10	R2より繰越
13	R3	備品購入	サイレンティアスクリーンシステム	1	SIL-6211-W 他	日本財団「新型コロナウイルス感染症対策整備支援事業」	1,599,400	10/10	
14	R4	施設整備	東1病棟医療ガス設備整備工事	1	—	補助金なし（財源は企業債）	4,516,600	—	R3より繰越
							44,887,860		

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所属・部門	総務課
項 目	4 院内感染対策、職員のワクチン接種		

### (1) 対応、取組、実績

- ・令和2年4月から、新型コロナ対策に関するBCP作成や院内感染対策等を協議するため、新型コロナウイルス感染症院内対策会議を設置し毎月開催した。令和3年度は月2～4回開催、令和4年度は適宜開催とし、院内クラスター発生期間中は毎日開催し対策を協議した。
- ・主な感染対策として来院者に対する玄関での検温やトリアージを実施、手指消毒の徹底、院内におけるゾーニング等を実施した。感染拡大時には、外来での電話診療の実施やデイケアの人数を縮小するなど対応した。
- ・職員へのワクチン接種については、令和3年3月に1回目のワクチン接種を実施、以降、令和5年7月までに6回のワクチン接種を実施し、延べ1005人の職員に接種を行った。

### (2) 評価

- ・院内対策会議の設置により、感染対策における情報共有、意識啓発、実施の徹底を図ることができた。また、院内クラスター発生時には、感染状況の把握と共有、感染経路の調査と蔓延防止、患者家族への連絡等円滑に行うことができた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・院内における感染対策の徹底を図っているものの、当院病棟において3度のクラスターが発生した。今後、感染対策の徹底を図ることは当然であるが、発生した際の対応について、今回の経験とノウハウを蓄積し、適切かつ迅速な対応につなげていく必要がある。

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	総務課
項 目	5 周辺医療機関、保健所等との連携		

### (1) 対応、取組、実績

- ・ 重点医療機関として新型コロナ対応病棟を開設し、新型コロナに罹患した精神身体合併症患者を受け入れるため、当院の入院患者 53 名について、令和 2 年 8 月から 11 月にかけて、琉球病院を始め糸満晴明病院、オリブ山病院など県内 13 の精神科病院に患者の受け入れを行って頂いた。
- ・ 入院患者や職員の円滑な P C R 検査実施のため、令和 2 年 10 月より、南部医療センターこども医療センターへ委託検査を依頼した。

### (2) 評価

- ・ 既入院患者を他の精神科病院で受け入れて頂いたことにより、コロナ対応病棟を開設することができた。令和 2 年 4 月から令和 5 年 5 月までの当院における新型コロナ入院患者は 353 名となっている。
- ・ P C R 検査を南部医療センター・こども医療センターに委託できたことで、検査から結果判明までの時間短縮が図れ、当院の新型コロナ対応を迅速に行うことができた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・ 県内精神科病院との連携・協力により当院に新型コロナ対応病棟を開設することができた。今後とも他の県内精神科病院との連携・協力を密に図っていく必要がある。
- ・ P C R 検査について、南部医療センター・こども医療センターの検査体制が逼迫した際には、民間の検査機関に依頼する必要がある、その場合は検査結果判明までに時間を要した。

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	総務課
項 目	6 職員のサポート		

### (1) 対応、取組、実績

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和3年4月1日「沖縄県立精和病院新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルス相談窓口設置規程」を制定、院長以下、副院長、看護部長、事務部長、総務課長、労働組合推薦の医院からなるコロナ関連メンタルヘルス委員会（同委員のため衛生委員会にて委員会及び相談員の決定を行う。）及び複数セクションの職員を相談員とするメンタルヘルス相談窓口を設置した。

本院に勤務するすべての職員を対象に新型コロナウイルス感染症に伴うメンタルヘルスカケアを効果的に行うため、相談員は医師、看護師、コメディカル、事務職等他職種から選定し、電話や相談箱への相談申し込み投函により、相談者が相談員を指名できる仕組みとした。また同相談窓口の設置等はポスター等で周知を図り、相談箱近くに相談員の名簿を掲示している。

相談窓口の設置から、本件に関する相談実績はない。

### (2) 評価

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルスの相談窓口や投書箱を設置し、職員に周知したが実際の利用はなかった。しかしながら、院内クラスター発生時などは職員の就業制限もあるなかで感染予防を行いつつ患者対応を行うなど、職員の勤務環境も厳しくなることから、このような仕組みは必要であると考えます。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・ 今後も継続して実施し、職員に周知を行う。

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	精和病院	所 属 ・ 部 門	医事・経営課
項 目	7 病院経営への影響、コロナ関連補助金の活用		

### (1) 対応、取組、実績

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度より医業収益の減少が顕著となった。令和2年度は一般病棟の1病棟をコロナ専用病棟とするため、患者約50名を民間病院等に転院させたことで患者数が減少となり、入院収益減少の大きな要因となった。また、感染拡大防止のため外来及びデイケアの診療制限や、長期処方などにより患者数が減少となり、外来収益も減少となった。令和3年度においても入院及び外来患者数は減少し、医業収益はさらに減少となった。
- ・医業収益は大幅に減少となるも、医業費用については令和2、3年度いずれも対前年度比で増加となった。増加の要因として、コロナ関連手当による給与費の増加が挙げられる。患者数の減少に伴い材料費は減少したが、それを大きく上回る給与費の増加となった。令和3年度ではさらに、PCR検査に係る委託料も大きく増加となった。
- ・令和4年度から診療制限の緩和による新規入院患者の増加や、診療単価の高いコロナ陽性患者の受け入れなどにより入院収益は増加となった。外来については、令和5年度から外来患者数も徐々に増加となっており、外来収益も増加している。

### (2) 評価

- ・一般病棟をコロナ専用病棟に変更したことで、入院収益は大幅に減少となったが、病床休止による入院病床確保支援事業補助金の受け入れが病院経営を大きく支えることになった。
- ・コロナ関連補助金として、令和2年度では約7億400万円、令和3年度は約13億7,100万円、令和4年度は約7億1,500万円を受け入れ、令和2年度から4年度の決算において経常収支は黒字となり、繰越欠損金の大幅な減少となった。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・コロナ専用病棟を一般病棟として再開し、入院及び外来患者数の増加に向けてデイケア、訪問看護の強化、他医療機関との連携等に取り組んでいく予定としている。
- ・コロナ関連補助金のような補助金制度について、今後も情報収集や県立病院間等での情報共有を行い、適正に対応することが必要がある。